

あいさつ運動の好事例

瀬戸内市立裳掛小学校

(児童数28名 教職員数10名)

あいさつの輪を広げよう！

アピールポイント

毎月10日・25日には、地域からは民生児童委員等各種団体、PTAからは保護者が輪番で、あいさつ運動に立ってくださっている。

運営委員会のメンバーは、毎回早目に登校し、校門に立ち、全児童の登校を迎え入れ、模範となって「元気なあいさつ」を実践している。また、各教室を回っての「あいさつ運動」も実践しており、あいさつの輪は確実に広がっている。

実際の様子



取組の概要

■児童生徒の実態

全校児童28名。素直で落ち着いた子どもたちが多い。「あいさつがよくできる」と95%の児童は思っている。しかし、元気よく自分からできる児童も多いが、声が小さく聞こえにくかったり、地域の方々に聞こえるように言えなかったりする児童もいる。

■活動内容

毎月10日、25日のあいさつの日に、地域・保護者・教職員・児童が中心となり「あいさつ運動」を実施。

運営委員会の呼びかけで、「あいさつの輪を広げよう」と全校に呼びかけたあいさつ運動を展開。全校で、標語を考えたりポスターを作成したりした。また、運営委員会が、毎朝、各学級を回って、あいさつを呼びかけている。

■取組の参加メンバー

教職員、児童、保護者が参加。地域住民多数参加。

運営委員会が中心になって活動。

■成果・効果

なかなか声が出なかった児童も少しずつ大きな声であいさつができるようになってきている。通学班の班長が、お手本となるあいさつを心がけることや、運営委員会の積極的な取り組みによって、気持ちのよいあいさつの輪が広がっている。